

2024年度 科学研究費助成事業採択結果

補助総額は約3億7千万円

本学における令和6年度科学研究費助成事業(科研費)の採択状況は、9月10日現在、新規採択課題と前年度からの継続課題をあわせて、265件(前年度277件)となった。補助総額は約3億7千2百万円。

科研費はわが国の学術を振興するため、人文・社会科学・自然科学など全ての分野を対象とし、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な学術研究を発展させることを目的とする競争的研究資金である。専門分野の近い複数の研究者による公正で透明性の高い審査・評価システム(ピア・レビュー)を経て、配分が決定される。

研究種目などによって採択期間や助成額は異なり、採択期間は1年から6年となる。

今年度は、新規に76件(前年度63件)の課題が採択となり、その補助総

額は約1億6千5百万円(前年度より約3千6百万円増)であった。

今年度全体の採択率は35.6%で前年度より2%増える結果となった。大型種目の新規採択については別表のとおり。

種目別の採択においては、挑戦的研究(開拓)に本学で初めて採択されたことは注目すべき点である。本種目は採択率が10%程度と低く、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させ、飛躍的に発展する潜在性を有する課題が採択される種目であり、今後の研究成果が期待されている。

また、研究活動スタート支援については、昨年度の採択率22.2%から40%へ上昇した。

昨今の社会情勢から、研究活動を行ううえで、外部資金の獲得は必要不可欠となっている。新型コロナウイルス

の感染拡大による研究活動の停滞に伴い期間延長された研究課題も、その多くが終了時期を迎えている。引き続き、採択経験を積んだ研究者の大型種目へのステップアップと若手研究者の採択に向けた支援の強化が、今後の科研費補助の増加につながると考えられる。

(別表)令和6年度科学研究費助成事業「新規」採択研究課題(抜粋)

| 学部・学科名                                                                                        | 職名  | 研究代表者 | 研究課題名                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------|-------------------------------------------|
| ◆挑戦的研究(開拓)(3~6年間で500万円~2000万円の研究費が配分される<br>これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究) |     |       |                                           |
| 理工学部<br>機能創造理工学科                                                                              | 教授  | 高井 健一 | 水素脆化破面の局所領域における格子欠陥検出技術の開拓と新たな水素脆化理論への展開  |
| ◆基盤研究B(3~5年間で500万円~2000万円の研究費が配分される独創的・先駆的な研究)                                                |     |       |                                           |
| 経済学部<br>経済学科                                                                                  | 教授  | 蓬田 守弘 | 気候政策と国際貿易の国際協調に資する国境炭素調整措置の制度設計           |
| 経済学部<br>経済学科                                                                                  | 准教授 | 樋口 裕城 | 歴史的データとサーベイ実験を用いた商業集積の発展に関する実証研究          |
| 理工学部<br>機能創造理工学科                                                                              | 教授  | 江馬 一弘 | 2次元ハイブリッド物質における多重量子井戸ポラリトン:2次元と3次元を繋ぐ光学応答 |
| 理工学部<br>物質生命理工学科                                                                              | 教授  | 竹岡 裕子 | 高耐久性ペロブスカイト太陽電池に向けたπ共役系ホール輸送材料の開発         |
| 理工学部<br>機能創造理工学科                                                                              | 教授  | 菊池 昭彦 | InGaN系フォトリソニック結晶を用いる可視域トポロジカル面発光レーザの開発    |
| 総合人間科学部<br>社会学科                                                                               | 教授  | 今井 順  | 資本主義的労働社会のサステナビリティプラットフォーム・ワーク拡大の総合的研究    |
| 文学部<br>新聞学科                                                                                   | 教授  | 佐藤 卓己 | 歴史対話を可能にする『東アジア現代メディア史』に向けた国際連携研究         |

MIRAI 第3フェーズ  
キックオフイベント開催  
日本・スウェーデンの  
学術研究交流プロジェクト

「MIRAI」は、2017年に発足した日本とスウェーデン間の学術交流促進を目的とした大学間連携プロジェクトで、現在は本学を含む17大学がメンバーとなっている。

2024年からプロジェクトの第3フェーズが開始。9月4日にオンラインでのキックオフイベントが行われ、200人以上が参加した。

イベントの前半では、スウェーデン側からストックホルム環境研究所のディレクター、日本からはANAホールディングス株式会社のB777の機長がそれぞれサステナビリティをテーマとする基調講演を行った。

さらに第3フェーズでスタートした4つのGlobal Challenge Team(GCT)では、日本、スウェーデンの共同議長が登壇し、各チームの活動予定等につ



オンラインイベントで発表する  
藤田正博教授

いて発表を行った。本学からは、GCTの1つであるMaterials for Energy Conversion and Storageの共同議長を務める理工学部物質生命理工学科の藤田正博教授が登壇、発表を行い、両国で持続可能な社会のための技術開発に資する様々なテーマを扱うことを掲げた。

MIRAI 第3フェーズでは、これまでの参加大学間の連携強化と研究の進展をふまえ、研究成果の社会還元を進めることを目標としている。本学は引き続きMIRAIへの参加を通じて本学の強みを活かした研究を推進し、グローバル社会の課題解決のための取り組みを進めていく。

香港中文大との連携講座

香港・東京を舞台に経営課題の解決に挑む

8月12日から約2週間にわたって、協定校の香港中文大学との連携講座が実施され、本学の学生6人と、香港中文大学で観光学やホテル経営学を学ぶ学生6人の計12人が参加した。“Design Tomorrow’s Retail Customer Experience(小売顧客体験の新たなデザイン)”をテーマに、両校の学生が混成グループを編成。ビジネスの最前線で活躍する実務家らのレクチャーなどを経て、グループごとに最終提言を取りまとめた。

香港で実施されたプログラム前半では、香港中文大学の教員による小売業に関する講義、在香港日本総領事の公邸にて岡田健一大使との懇談、現地商業施設の視察やその経営戦略の調査などが行われ、世界有数の競争力を有する香港経済のダイナミズムを肌身で感じ取った。

後半では、学生達は東京に移動。香港との相違点や共通点を念頭に置きながら商業施設を視察したうえで、自身の専門的知見を交えながらグループで議論を行い、最終提言に向けて内容を練り上げていった。

8月21日には、首都圏を中心に百貨店や商業施設を展開する株式会社丸井



互いの専攻分野の知見を活かしながら  
発表に挑んだ

グループで執行役員を務める石岡治郎氏が、同社が標榜する「売らない店」づくりのビジネスモデルを解説。顧客に体験価値を提供することで収益を上げる同社の経営戦略に、学生たちは感心しながら耳を傾けた。

最終日はこれまでの総括として、六本木ヒルズ森タワーや池袋のサンシャインシティなど、東京を代表する商業施設の調査・分析を行い、経営課題解決の提言を行った。

本プログラムのコーディネーターを務めた経済学部経営学科の網倉久永教授は、「2019年以来、5年ぶりに東京・香港を相互に訪問することができた。過去4年間オンライン形式を取り入れてきたが、現地に足を運び、現物に触れることではじめて得られる気づきや学びはかけがえないものであることを再確認した」と振り返った。

寄贈作品を多数展示 10月18日まで開催

まりあ 鞠安日出子 イコン・日本画ー生きるカー

日本における数少ないイコン・日本画の作家の中で、突出した才能を発揮する鞠安日出子氏の展示会を、10月18日まで四谷キャンパス2号館1階で開催中。イコンは、ギリシア語の「肖像」、「似姿」、「イメージ」を意味する「エイコーン」が語源。主として東方正教会で崇拝されている板絵の聖画像のことを指し、キリスト、聖母、聖人や聖書の場面が描かれたものなどで構成されている。今回の展示会は、本学の創立に関わる歴史的背景をもと

に、キリスト教と日本文化の融合を感じることができる内容となっている。



鞠安氏から上智学院へ寄贈された  
作品を展示



開催情報はこちら

Sophia Open Research Weeks 2024  
11月5日(火)~24日(日)

上智大学では、研究所・センター等の研究成果の発信の場として、毎年Sophia Open Research Weeks(SORW)を開催し、講演会やシンポジウムを通じて様々な研究活動を紹介しています。本学の研究機構や附置研究機関の研究所・センターを中心として、期間中20以上の企画を実施し、幅広いテーマを取り扱います。

今年度は11月5日~24日に開催予定で、学内外を問わず、高校生や一般の方にも広く公開しておりますのでぜひご参加ください。詳細情報は、本学公式サイトのSORWページで、10月中旬以降に順次公開予定です。



第22回 上智大学国連Weeks, October 2024  
10月8日(火)~24日(木)

|                       |                                                    |
|-----------------------|----------------------------------------------------|
| 10/8(火)【講演会】          | SDGsに貢献する先端化学技術                                    |
| 10/15(火)【講演会】         | ガザの新たな平和と復興~国連事務次長補を招いて~                           |
| 10/17(木)【シンポジウム】      | 戦争犯罪と人権の保護                                         |
| 10/18(金)【シンポジウム】      | 自治体・企業の地域規模の気候変動問題への取り組み：地域開発・発展及び社会的課題とのインターリンケージ |
| 10/21(月)【講演会・ワークショップ】 | 国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ                              |
| 10/23(水)【シンポジウム】      | 世界遺産：平和で持続可能な社会へ                                   |
| 10/24(木)【シンポジウム】      | 国連デー企画：国連事務総長メッセージ+「人道支援におけるイノベーション：なぜ必要か、誰のためか」   |

写真パネル展(場所：四谷キャンパス2号館1階エントランス)

10/8(火)~24(木) 世界遺産のモノローグ

\*各イベントの詳細および参加申込みは、右のQRコードからご確認ください。

